

OB通信

鳳 翽

復刊第17号
=2015年12月=



武富会長と感謝状を受領された皆さん（右から末國、山本、田中さん）

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会
鳳翽会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富 敏夫・・・・・・・・ 1	1
1 本部・支部連絡先	・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	3
2 会長及び事務局からOBの皆さまへ	・・・・・・・・・・・・・・・・ 4	4
3 会長就任にあたって	山口支部 池富士 清・・・・・・ 5	5
4 OB会（鳳翔会）総会		
(1) 平成27年YUWVOB会（鳳翔会）総会報告	・・・・・・・・・・・・・・・・ 6	6
(2) 収支計算書及び貸借対照表	・・・・・・・・・・・・・・・・ 8	8
(3) 平成27年OB総会を終えて	山口支部 坂田 信一・・・・・・ 10	10
(4) OB会懇親会に参加して	工 奥迫 翔太・・・・・・ 11	11
5 各支部活動状況（平成27年8月～11月）		
(1) 東京支部 秋山 高弘	・・・・・・・・・・・・・・・・ 12	12
(2) 関西支部 池田 純	・・・・・・・・・・・・・・・・ 12	12
(3) 山口支部 池富士 清	・・・・・・・・・・・・・・・・ 13	13
(4) 九州支部 武富 敏夫	・・・・・・・・・・・・・・・・ 13	13
6 会員近況		
(1) 「ちきゅう」見学で思ったこと	東京支部 熊谷 忠輝・・・・・・ 15	15
(2) 日々是好日	関西支部 長野 浅芳・・・・・・ 16	16
(3) 近況報告	山口支部 馬屋原範聡・・・・・・ 17	17
(4) 玄冬に感じる＝時の流れは速いものである	九州支部 永沼 嗣朗・・・・・・ 18	18
7 北から南から		
(1) YUWVOB ロートル会に初めて参加して	東京支部 原 具寛・・・・・・ 21	21
(2) 屋久島紀行	東京支部 福永 俊美・・・・・・ 23	23
(3) 四国八十八か所霊場・歩き遍路 1200 km	東京支部 恵谷 浩・・・・・・ 25	25
8 同期会だより		
(1) 還暦同期会	東京支部 秋山 高広・・・・・・ 29	29
(2) 平成27年「昭和50年組同期山行：尾瀬」	東京支部 原口 孝志・・・・・・ 30	30
9 ワンゲル今昔（スタンプ）		
(1) 農学部名物スタンプと、そのご縁が今も脈々と…	山口支部 木山 克彦・・・・・・ 33	33
10 現役活動報告		
(1) 2015年度夏合宿報告	経済 大江 一嘉・・・・・・ 34	34
(2) 第52回中国・四国合同ワンデリング報告	人文 山本 光慶・・・・・・ 36	36
11 編集後記	人文 小林 遼大・・・・・・ 36	36

はじめに

鳳翔会会長 武富 敏夫

行政手続きに利用するマイナンバー制度で、12桁の個人番号を知らせる通知カードが届きました。マイナンバーは、「行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平・公正な社会を実現する社会基盤」といわれています。私たちはマイナンバーと同じように、自ら希望して取得したものや、官公庁から通知されてきたものなど多くの個人番号を保有しています。前者はキャッシュカードや預貯金口座、パスポート、運転免許証などであり、後者は住民票コード、基礎年金番号、雇用保険被保険者番号などです。

住民票コードは平成14年8月5日現在で作成され、住民票所在地の世帯に市町村より通知されてきましたが、その後他の市町村へ転入出したり、子どもが同一世帯から外れて転出しても市町村からは何も連絡がありません。国は住基ネットに2千億円以上の費用を投じていますが、その普及率は今年3月末で僅か5.5%にとどまっているとのこと。総務省は「公務員の人件費や住民の手続きの簡略化で毎年510億円節減できた」といっていますが、これは国民の2人に1人のカード取得を前提に同額の試算をしたもので、実際の費用対効果ははるかに少ないものと思われます。これまで住民票コードを使用する機会はなく、これを使用しなくても、日常生活に支障はまったくありませんでした。

今回のマイナンバー制度の導入費用は3千億円で、毎年300億円の維持費がかかり、住基ネットも「マイナンバーとシステムも役割も違う」として年間130億円の維持費を使って存続させる方針とのこと。旧システムの費用対効果が適切に検証されないまま、また新しいシステムの導入かとあきれ返るばかりです。

なるほど情報を番号で管理すると集計や管理の事務手続きが簡素化され非常に便利となります。ある大学のOB会では、OB会員に番号を付与し番号管理しているとのこと。鳳翔会の会則では、正会員は「山口大学に在学中に山口大学ワンダーフォーゲル部に在籍した経歴を有し、且つOB会に入会の意志を表明した者で、入会及び脱会は自由とする。」と定められています。1日でも部に在籍すればOB会に入会できる資格を有するとしていますが、OBをすべて把握することは困難であり、OB会員に番号を付与し番号管理することに無理があると考えます。現在では、都道府県番号などを利用して会員の皆さまの管理ができる程度です。

さて、今年のOB総会は、山口支部引受で11月7日(土)～8日(日)翠山荘において、69名のOB会員の皆さまの参加で盛会におこなうことができました。またOB総会において、山口大学創基200周年の寄付の報告と新生OB会会長と部顧問経験者への感謝状及び記念品の贈呈などをおこないました。その後の懇親会には21名の現役生を招待し、山口大学学長岡正朗様、学長特命補佐本田正春様、部顧問の人文学部准教授池田勇太様、前会長故山本充二ご令室太起子様の4名をご来賓として出席いただきました。

OB総会開催のため準備から企画・運営にあたられた、山口支部の皆さまに改めてお礼を申し上げます。ご都合により出席できなかった会員の皆さまには、6ページから総会の議事内容を報告していますのでご一読ください。

本総会においては、12月31日で会長が任期満了となるため、次期会長の選出を決議しました。次期会長として、山口支部の池富士清氏が総会出席者全員の賛成によって選出されたことをご報告いたします。

故山本前会長より会長職を引き受け12月で4年となります。山口支部の皆さまと事務局の積極的支援、またOB会員の皆さまのご協力によって何とか任務を果たすことができ、OB会員と現役部員の皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

先輩や会長経験者の方々のいろいろな思いが込められた「会長職」のタスキを受け取りましたが、この4年間の活動で貴重な経験をさせていただきました。その経験や整理したOB会資料などを次期会長へ引き渡したいと思っております。

今年も駅伝シーズンを迎えました。駅伝ではゴールすればその競技でのタスキ渡しは終わりとなります。しかし、タスキは翌年以降の試合へと引き継がれていきます。鳳翔会でも私が受け取ったタスキが次の会長へと確実に手渡され、鳳翔会がますます発展することを願ってやみません。

ところで、近年のOB会活動の動向について、城島紀夫さんの「ワンダーフォーゲル活動のあゆみ」では、「長年にわたって会の運営面を担ってきた創部当時のOBが高齢化しつつあること、OB会が歴史を重ねてきたことにより、年代層が幾重にも重なってきたことにより、運営面において苦勞をしているところも見受けられる」と述べておられます。

鳳翔会も他大学のOB会と同様のことがいえるのではないのでしょうか。鳳翔会の会員資格はOB会費を納入した方となっています。同期世話人の方などに住所情報の提供をお願いしたり、住所が判明しているOBの皆さまには、年1回OB通信を届けて会員維持・拡大を図っているところですが、会員数は現状維持の状態です。大量部員時代が去り、平成に入ってから部員数が減少し、かつ鳳翔会の入会が極端に少なくなっていることに危惧を感じているところです。このため、同期世話人の就任のお願いもできない卒年があります。

鳳翔会も入会促進をはじめ運営面で新たな対応に迫られているところですが、OBの皆さま、今後も次期会長はじめ執行部に温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

今年も残りわずかとなりましたが、山口県が全国で一番脚光を浴びた県ではなかったかと思います。来年はどこの県が一番脚光を浴びるのでしょうか。来年が良い年でありますよう皆さまのご健康とご多幸を祈念します。ありがとうございました。

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

武富 敏夫

(経済・昭和45年卒)

OB会副会長

池富士 清

(農・昭和47年卒)

OB会事務局長

小林 遼大

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経済・昭和49年卒)

副支部長 高田 哲生 (工・昭和49年卒)

事務局長 秋山 高弘 (経済・昭和53年卒)

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・昭和51年卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清 (農・昭和47年卒)

本部OB会副会長と同じ

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経済・昭和39年卒)

支部長 武富 敏夫 (経済・昭和45年卒)

本部OB会会長と同じ

事務局長 龍 純二 (文理・昭和50年卒)

2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送などOB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。ただし、年一回8月発行のOB通信は住所情報確認のため発送します。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局長までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先（平成28年1月以降）】

会長 池富士 清

事務局長 浅川 佑二

会費有効年に応じて、会費納入について(お願い)、お知らせ、郵便局払込取扱票を同封しています。入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

【会費有効年が2014年及び2015年の皆さま】

会費納入について(お願い)、お知らせ、郵便局払込取扱票

振込先 口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

OB会費 個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

(2) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長または事務局長まで連絡願います。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおり願います。

8月発行分 7月中旬

12月発行分 11月中旬

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長または事務局長までお寄せください。

(4) 出版物の紹介

戦後初、日本のワンダーフォーゲルの活動史とその意義を明らかにした本が、下記のとおり出版されていますので紹介します。この本の中には山口大学ワンダーフォーゲル部についても記述されています。

「ワンダーフォーゲル活動のあゆみ ― 学生登山の主役たち ―」

- ・日本ワンダーフォーゲルは、いつ、どのように始まり、どのように発展していったか？
- ・山岳部とどう違うのか？ 学生登山を担ったのはどちらか？
- ・様々なワンダーフォーゲル部、何をめざし、どこへ行こうとするのか？
- ・各大学の創部年、学生登山とその社会背景を記した巻末年表も貴重

著者：城島紀夫（日本山岳文化学会会員）

発行：古今書院

定価：2,700 円（税込）

(5) 平成 27 年会員数の動向(敬称略)

新規(再)加入者 9 名

須藤展弘	昭和 44 年	文理
根本房和	昭和 44 年	農
戸村清志	昭和 45 年	工
塩塚 保	昭和 50 年	経済
清家和子	昭和 51 年	農
丸山庄司	昭和 57 年	工
小林美樹	昭和 61 年	教育
水津千加司	昭和 62 年	経済
奥原芽衣	平成 27 年	人文

退会者(会費未納による) 4 名

佐々木和男	昭和 46 年	工
中澤辰江	昭和 50 年	文理
笹村正三	昭和 57 年	教育
藤井良和	平成 12 年	農

(6) お詫び

数名の OB 会員さまより「8 月 OB 通信は途中のページから逆向きに綴じられている。」との連絡をいただきました。同じような OB 通信をお受取りになりました OB の皆さまに大変ご迷惑をお掛けし、この場を借りて深くお詫びいたします。

今後こうしたミスが発生しないよう、OB 通信の落丁などの確認に万全を期してまいりますので、よろしくをお願いします。

3 会長就任にあたって

平成 27 年 11 月 30 日

山口支部 昭和 47 年卒 農 池富士 清

去る、11 月 7 日から 8 日にかけて、2015 年鳳翔会総会が開かれました。

ご案内のとおり、今回は山口支部引き受けで、田村伊正準備委員長の下、10 数名の準備委員、また、当日は現役部員の支援を得て運営に当たりました。

今回は、OB 会員参加数が 70 名と多く、また、懇親会には現役部員の参加も実現し、100 名に上る賑やかな、また、今年が山口大学創基 200 周年に当たり、記念事業に協力する行事も組み込み、Y UWV おひざ元山口ならではの会となりました。

引き受け支部の支部長として、参加された皆さん、準備・運営に携わっていただいた皆さんに、心よ

り感謝するとともに、YUWVのきずなの強さを再認識したところです。

さて、本総会の役員改選議案において、次期会長候補として、私が推薦され、皆さんの賛同を得て、次期会長を引き受けることとなりました。

総会の前に、会長等役員選考委員会が開催され、私が候補者として推薦された訳ですが、もとより、発足後50年を超える、歴史と伝統あるOB会、また、素晴らしい人材で繋いでこられた歴代会長の後を引き受ける思いも、能力も足りない私が引き継げるのかと、自問自答もしたところです。

しかし、先輩の激励や山口支部を中心とした後輩の皆さんの支援があり、会長就任を決断するに至りました。

幸いにして、今総会において、執行部の体制強化を狙いとして、幹事を設置（2名以内）するよう、会則が改正されました。

また、今総会・懇親会の間、多く方から、温かい激励の言葉を頂戴しました。

此の場を借りまして、改めて、お礼申し上げます。

今後、山口支部の皆さんの協力を得て、執行部の体制を固め、これまで、歴代の会長さん並びに執行部の皆さんが築いてこられた伝統をつないでいきたいと思っています。

終わりになりますが、会員の皆様の、益々のご健勝、ご発展をお祈りいたしますとともに、今後とも、OB会へのご支援、ご協力をお願いしまして、挨拶とします。

4 OB会（鳳翔会）総会

（1）平成27年YUWVOB会（鳳翔会）総会報告

平成27年のYUWVOB会（鳳翔会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

1. 日時 平成27年11月7日(土) 17:00～17:35
2. 場所 翠山荘
3. 参加人員 会員 69名 現役 2名
4. 議事

開会の言葉の後、議事に先立ち物故者に対して黙とうをおこなった。

会長挨拶後、OB会発展に貢献された新生OB会会長経験者、末國弘司氏と故山本充二氏及びワンダーフォーゲル部顧問経験者田中秀平氏に感謝状及び記念品を贈呈した。

総会出席者の承認を得て、山口支部田中秀平氏が議長に選任された。

1) 決議事項

【第一号議案 平成26年会計決算報告及び監査報告の件】

会長より、「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」に基づき、平成26年1月1日から12月31日までの収支状況並びに平成26年12月31日現在の財産状況の報告がおこなわれた。

次に、監査田村伊正氏より、2月5日会計帳簿等の監査をおこない、平成26年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であると報告がおこなわれた。

平成26年会計決算報告及び監査報告に関して、質疑応答はなく承認可決された。

【第二号議案 平成 27 年事業報告の件】

会長より、OB会則第三章の規定に基づき、1月から11月までの事業結果及び今後の事業予定の報告がおこなわれた。

平成 27 年事業報告に関して、質疑応答はなく承認可決された。

なお、事業結果及び事業予定は次のとおりである。

- 1) OB 総会の開催 11月7日～8日
感謝状及び記念品贈呈(新生 OB 会会長及び山口大学ワンダーフォーゲル部顧問経験者)
- 2) 会長等役員選考委員会設置及び役員選考委員会(6月16日)の開催
- 3) 第一回OB通信の発行 8月8日(発送部数 345 組)
- 4) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等
追いコン出席(1月16日)、新入生勧誘支援、OB 総会現役部員参加費用一部補助(15 万円)
- 5) OB 会運営体制の整備
同期世話人との連携強化のための連絡文書送付(6月16日)
- 6) 山口大学創基 200 周年寄付(5 万円)
- 7) 第二回OB通信の発行及び会員名簿の作成 12月中旬発送予定

【第三号議案 会則変更の件】

会長より、執行部の運営体制を強化するため、第六章「役員」の項を改正する旨の説明があった。改正点は次のとおりであるが、会則変更に関して、質疑応答はなく承認可決された。

- 1) 会計及び事務局長の任期は一年であるため、一項に「会計及び事務局長を除く」を挿入する。
- 2) 執行部の運営を強化するため、会長及び副会長を補佐する役員として、新たに「幹事」の役職を設ける。
- 3) 副会長及び幹事の員数をそれぞれ二名以内とし、会長の補佐体制を充実させる。合わせて五項に幹事の責務を挿入する。
- 4) 会計及び事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部員が務めていることから、六項に「会計及び」を挿入する。
- 5) 五項に幹事の責務を挿入したことに伴い、五項から七項を六項から八項に変更する。

【第四号議案 平成 28 年総会開催地の件】

会長より、平成 28 年の総会開催地を「九州支部」で実施する旨提案があった。平成 28 年総会開催地に関して、質疑応答はなく承認可決された。

なお、議案の終了後、九州支部長武富敏夫氏より開催するにあたっての挨拶がおこなわれた。

【第五号議案 パソコン破棄の件】

会長より、パソコン破棄についての説明があった。破棄理由は次のとおりであるが、パソコン破棄に関して、質疑応答はなく承認可決された。

- 1) 購入以来 10 年を経過していること。
- 2) 事務局で処理する業務は少なく、個人のパソコン・USB メモリーなどで対応できること。

【第六号議案 次期会長選任の件】

会長より、現会長は平成 27 年 12 月 31 日をもって任期満了となるため、次期会長を選任

する必要がある旨の説明があった。次期会長候補者選考にあたっては、6月16日開催の会長等役員選考委員会において、次期会長候補者として池富士清氏を指名し、委員全員異議なく賛成・承認可決し、被指名者も予選を承諾した旨の報告があった。会長より次期会長候補者として、池富士清氏を指名し会場に諮ったところ、出席者全員異議なく承認し、次期会長として池富士清氏を選任することが決定した。

なお、議案の終了後、池富士清氏より挨拶がおこなわれた。

(2) 収支計算書及び貸借対照表

収支計算書(平成26年1月1日～12月31日)

(単位：円)

収入の部		
	平成26年入金会費	53,000
	平成26年預り金振替	353,000
	収入の部合計	406,000
支出の部		
	平成25年OB通信12月号関連	2,214
	平成26年OB通信8月号関連	60,194
	平成26年OB通信12月号関連	39,235
	OB総会関連	156,860
	ホームページ運営費	5,648
	新入生勧誘助成費	50,000
	海浜合宿助成費	18,740
	会長旅費	48,420
	事務局費	16,400
	その他経費	14,689
	支出の部合計	412,400
収支		
	平成26年収支	▲ 6,400
剰余金		
	前年繰り越し	538,393
	翌年繰り越し	531,993

注)

- 支出の部 ①新入生勧誘助成費及び海浜合宿助成費は、いずれも新入部員獲得等の費用として鳳
 翔会から助成しているものです。
 ②事務局費は事務局業務のご苦勞に対して支払いしているものです。

貸借対照表(平成26年12月31日現在)

(単位：円)

	科目	期首残高	当 年		期末残高
			増加	減少	
資産の部	現金	38,000	404,738	442,738	0
	預金				
	広島貯金事務C	1,687,023	368,370	412,400	1,642,993
	預金計	1,687,023	368,370	412,400	1,642,993
資産合計		1,725,023	773,108	855,138	1,642,993
負債の部	未払費用	35,630	412,400	448,030	0
	会費預り金				
	平成26年	353,000	53,000	406,000	0
	平成27年	260,000	94,000	0	354,000
	平成28年	211,000	67,000	0	278,000
	平成29年	127,000	59,000	0	186,000
	平成30年	74,000	51,000	0	125,000
	平成31年	39,000	30,000	0	69,000
	平成32年	26,000	2,000	0	28,000
	平成33年	17,000	2,000	0	19,000
	平成34年	12,000	2,000	0	14,000
	平成35年	8,000	4,000	0	12,000
	平成36年	4,000	2,000	0	6,000
	平成37年以降	20,000	0	0	20,000
	会費預り金計	1,151,000	366,000	406,000	1,111,000
負債合計		1,186,630	778,400	854,030	1,111,000
剰余金	剰余金	538,393	0	6,400	531,993
負債及び剰余金合計		1,725,023	778,400	860,430	1,642,993

注) ①会費預り金の平成27年から平成29年の残高には、非会員の方から寄付をいただいたみなし会費分が、各年4,000円、合計12,000円入っています。



岡山大学長他来賓を囲んで総会参加者全員1枚(part1)

(3) 平成 27 年 OB 総会を終えて

山口支部 昭和 57 年卒 理 坂田 信一

11 月 7,8 日「山口大学ワンダーフォーゲル OB 会、平成 27 年鳳凰会総会・懇親会」を開催し無事に終了することができました。多くの OB の方々に来て頂いて本当にありがとうございました。また、この総会・懇親会開催するにあたり、積極的に協力してくれた準備委員会のみなさんお疲れ様でした。今回、副委員長として全体の取り纏めをさせていただきましたので、その感想を書かせて頂きます。

実は、今回の準備、さほど難しいと感じた点はありませんでした。その理由は 2 つあります。一つ目は、総会開催の実績を重ねてきたためか、「準備のパターン」が確立されていたという点です。パターンに従って対応を進めれば総会・懇親会の準備はできました。二つ目は、今回の準備委員のほぼ全員が 4 年前の秋吉台での総会運営を経験していたという点です。このため、全員何をやるのか分かっており、簡単な打ち合わせだけ準備の実行が可能でした。しかも、みんなタレントでプランや懇親会のイベントの計画も順調に進みました。おかげで、私は焦ってパタパタすることは何もありませんでした。

一方で、私自身は、ハガキの回答の集計には神経と時間を使いました。集計ミスがあると、ホテルにも、会計にも、来場者にも迷惑がかかります。ハガキの集計は簡単そうですが、それが毎日続くと、入力のコマを間違えることが時々起りました。変更の連絡もあり、これらを正しく反映させ、集計ミス・ゼロをキープすることにはプレッシャーを感じました。今後、回答の集計を二人で独立に進め照合する等の対策は必要と思う次第です。また、参加の返答の E-mail 化も必要でしょう。E-mail で返答を受け付ければ、ハガキを出す手間が省けるので、参加者は増加すると思います。人との繋がりが大切な時代に、山口大学ワンゲル部 OB 会に属することができて、多分、我々はラッキーなのだと感じています。

最後に、今回の準備委員会のメンバー紹介と写真を載せておきます。この写真に写っていない人、写真のバックが明るすぎて写りが悪くなっている人、ごめんなさいね。



会議風景
と
宴会風景



準備委員長：田村伊正 (S53)、副委員長：八谷孝徳 (S54)、坂田信一 (S57)、池富士清 (S47)、会場確保：浅野哲郎 (S61)、トレーニング：古谷眞之助 (S52)、石川忠 (S49)、古谷恵子 (S52)、川地翔子 (H26)、平野展康 (S59)、徳田宏子 (S57)、会計：日南本一成 (S51)、日野耕二 (S58)、斉藤昌彦 (S60)、記録：三国彰 (S55)、田原宏 (S57)。

(4) OB会懇親会に参加して

工学部・1年 奥迫 翔太

今回、OB総会の懇親会に現役組として出席させていただきました、ワンダーフォーゲル部一年の奥迫翔太と申します。簡単ではありますが、懇親会の感想を述べさせていただきます。

まず感じたのが、山に行くときの道具の違いです。OBの方々と話すと、昔のテントや登山靴は今のようには軽くなかったと聞きます。現在でもテントなどの荷物は重いと感じるのですが、昔はもっと重かったと思うと今の自分たちはとても恵まれているなど改めて思います。これを機に、より山に登りやすい環境になっている私たちは幸せだと気づかされ、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。

また、幅広い年齢層のOBの方々を見るとワンダーフォーゲル部の長い歴史も強く感じ取れました。実を言うと、自分は特に理由もなくこの部に入りました。しかし、OBの方々がこのワンダーフォーゲル部を長い間守り、築き上げてきたと思うと自分はそれを誇りに思いますし、また、この部がより好きになりました。また、その歴史を今自分たちが作り上げているのを忘れてはいけません。長い歴史を絶やさないためにも、このワンダーフォーゲル部をもっと盛り上げていかなければならないと感じました。

自分は今後輩という立場ですが、これから先輩という肩書になっていくので自分もしっかりしていかなければならないなどいろいろ考えさせられる懇親会でありました。このたびは懇親会に参加させていただきありがとうございました。自分にとっては刺激なるものを受けさせていただいたと思います。



総会参加者全員写真 Part2 (現役部員も入れてもらいました)



現役部員によるスタンツ「山口ボンボン」披露



懇親会最後に全員で「ワンダーフォーゲルの歌」を斉唱

5 各支部活動状況（平成27年8月～11月）

（1）東京支部 活動報告

事務局長 秋山 高弘

1. 暑気払い

8月1日（土）17時～19時30分

JR 御徒町駅前 吉池食堂

参加者：村上、木村、松沢、高田、弟子丸、藤井、三浦、弓削、松永、乙咩、高津
福永、佐々木、三木ご夫妻、小田、小林、原口、城戸、秋山（以上20名）

JR 御徒町を見下ろし、東京スカイツリーを眺める、とても景色の良い明るい会場にて、恒例の暑気払いを開催しました。吉池食堂は新潟のお酒が充実したお店、皆さん色々な種類のお酒を飲み比べていました。宴会が始まってしまえばもう景色など関係ないですね。皆さんお話に夢中でした。久しぶりに参加された三木さんの奥様、そして藤井さんの挨拶の後、城戸支部長の一本締めでお開きとなりました。



2. 「ちきゅう」見学ツアー

9月5日（土）（参加者19名） 横浜本牧

支部 小林さんの計らいにより、「ちきゅう」見学ツアーを実施しました。

普通このような機会はないのですが、ドック入りの期間を利用して特別に実現したものです。横浜本牧での見学会の後は、中華街で懇親会を行いました。

本件につきましては、別途詳細記事をご覧ください。

（2）関西支部 活動紹介

支部長 池田 純

【2015年後半 関西支部の活動紹介】

2015年度後半は今のところ目立った活動はしておらず、メール配信、総会参加呼びかけにとどまっております。

当支部も高齢化が進み、飲み会には参加しますが山行はちょっとという人が増えてきたようです。とはいうものの、できることを半年に1回しましょうということで

この原稿の締め切りには間に合いませんが私の職場の地元である北摂の山散策を11月28日に計画しております。コースは、

森上バス停→登山口→三草山→長谷の棚田→垂水で標高は564mですからとっても楽な参考になるはずです。

北摂にはこのほかにも有名なちょっとした山が多いので、これからも計画を考えております。



秋の三草山



コース上には藁ぶきの家も

OB会員各位様

支部会員の若返りを計りたく転勤、就職等で関西に居を構えた方は、私のほうへ一報を入れていただければありがたいです。よろしく。

関西支部 支部長 メールアドレス：kiyoshi2660@ac-koka.jp

(3) 山口支部

支部長 池富士 清

山口支部では、8月以降、総会引き受け準備に集中し、準備委員会の開催、各担当による準備活動に務めてきました。

第4回準備委員会 10月3日 山口市 13名参加

第5回準備委員会 10月17日 山口市 14名参加

その他の活動としては、

現役海浜合宿激励 9月5日 萩市菊が浜 4名参加

現役部員10数名と、バーベキューを囲み、交流を深めた。

今後、総会引き受け打ち上げを兼ねた支部交流会の開催を計画しており、1年を締めたいと考えているところです。

(4) 九州支部

支部長 武富 敏夫

◎ H27.09.13 日帰ウォーク 宗像・大島オルレ 参加人員 7名

・ (コースタイム)

大島港フェリー乗り場 9:52 → 御嶽山 10:38 10:50 → 御嶽山裏登山口 11:25

11:30 → 遊歩道接続点 12:05 → 砲台跡 12:23 13:00 → 沖津宮遥拝所
13:30 13:35 → 大島港フェリー乗り場 14:00

・ (概況)

今年7月『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』が、2017年のユネスコの世界遺産委員会に推薦されることになったという訳ではないが、年初から宗像・大島オルレを計画していた。前の週が雨天のため一週間延期したが、絶好の外出日よりとなった。大島港を出発し「宗像大社中津宮」へ立ち寄った。この神社は宗像三女神と呼ばれる^{たぎつ}湍津姫君が祭られている。標高224mの御嶽山までは、コース最難関の急な登りのコースである。山頂からは対岸の神湊や福岡市内が見渡せた。

コースをたどり砲台跡で昼食となる。ここの砲台は昭和11年にできたそうで、コンクリート製の監視所と砲台跡が往時を物語っている。30分程で「沖津宮遥拝所」へ到着。海の色が鮮やかで、はるか約49km先にはうっすらと「沖ノ島」を見ることができた。大島港より「旅客船しおかぜ」で神湊港まで15分の船旅を経て、本日の日帰ウォークは無事終了。

【オルレについて】

「オルレ」は韓国・済州島から始まったもので、もともとは済州島の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味。自然豊かな済州島で、トレッキングする人が徐々に増え、「オルレ」はトレッキングコースの総称として呼ばれるようになり、今では韓国トレッキングの中心的コースとなっている。九州オルレは、宗像・大島オルレを始め、17コースがある。

◎ H27.10.17 日帰り山行 福智山 参加人員 4名

・ (コースタイム)

上野峡入口 8:53 → おおつが林道 9:35 9:45 → 上野越 9:58 10:05 →
筑豊新道分岐 10:46 10:49 → 福智山山頂 11:00 11:45 → おおつが林道 12:40
12:55 → 白糸の滝 13:29 13:40 → 上野峡入口 13:56

・ (概況)

北九州と筑豊の名峰「福智山」への登山ルートはいろいろあるが、今回は頂上へ比較的短時間で登れる上野峡からの登山ルートとした。上野越までは急な登りの連続で10分から15分に一度の小休止をしながら高度を稼いだ。筑豊新道分岐を過ぎると山頂が姿を現し、頂上まではもうすぐである。山の神が祭ってある祠に、本日の安全祈願をして山頂で昼食。360度の展望で東から西へ平尾台と貫山、山口県、関門海峡と北九州市街、遠賀川など、雄大な景色が昼食の御馳走に加わった。下りは白糸の滝ルートをたどる。クマザサの道には銀色に輝くススキやリンドウが我々を歓迎してくれていた。ロープの張ってある急坂を下り、白糸の滝経由で登山口へ。「あがの温泉白糸の湯」に入湯し本日の疲れを癒す。



◎ H27.11.28(予定) 日帰り山行 遠見岳・紅葉観賞 参加人員 4名

・ (コース)

縣社天照大神宮登山口 → 縣社天照大神宮 → 遠見岳 → 裏登山口 → 猪野ダム
→ 縣社天照大神宮登山口

6 会員近況

(1) 「ちきゅう」見学で思ったこと

東京支部 昭和45年卒 工 熊谷 忠輝

山の仲間である小林照明氏(工学部 昭和51年卒・国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)勤務)が地球深部探査船「ちきゅう」で活躍していると云う。

この話を聞いて、是非一度乗船したいと思い続け、2015年9月5日にやっと念願が叶い、INPIT(独立行政法人 工業所有権情報・研修館)三木氏をサブリーダー(旗頭)に、関東在住の仲間17人で横浜にドックイン中の「ちきゅう」見学となった。

「ちきゅう」は、JAMSTEC・地球深部探査センター(CDEX)が保有し運用する世界最大の科学掘削船である。全長210m、幅38m、深さ16.2m、吃水9.2m、檣の船底からの高さ130m、総トン数5万7千トン、5万馬力、最大搭乗人員200名であり、先端掘削技術を備えた海洋掘削科学研究所である。

その外観は戦艦大和の船体(全長263m、幅38.9m、吃水10.4m)に檣を立てた姿である。「ちきゅう」の掘削仕様をみると最大稼働水深2,500m、ドリルストリング長10,000m、即ち、海底下7,000mまで掘削可能と云う。

2005年の運用開始より「ちきゅう」の実績は素晴らしい発見の連続と云ってよい。

巨大地震・津波研究では、2009～2010年の東南海地震震源域である紀伊半島沖の南海トラフでの掘削、2012年には、前年3月11日の東北地方太平洋沖地震調査におけるプレート境界断層(地震断層)試料の採取の成功等により、これまで非地震性と考えられていたプレート沈み込み帯先端部が、実は地震性で高速滑りを起こし、特に巨大津波の発生メカニズムとして重要であることが明らかになった。

この発見により将来南海トラフ沿いで地震が発生した場合を想定すると、その最大震度あるいは地震に伴う津波の規模などに関して従来の想定を変更せざるを得ないこととなった。

一方、資源研究では、沖縄トラフの熱水噴出孔鉱床域で掘削・試料採取・検層に成功を収めたのに加え、経済産業省プロジェクトにおいて、南海トラフ(渥美半島沖)でメタンハイドレードの産出試験に成功した。

また、沖縄トラフや下北八戸沖での掘削では、地下生命研究に貴重な発見もあった。

熱水噴出域は地球生命が誕生した当時の環境に類似していると考えられ、生命の限界やその起源についての研究領域である。下北八戸沖では海底下に石炭層が存在し、海底下2,000mにも豊富な炭素の存在が生命(微生物)のパラダイスを形成していることが明らかになった。

「ちきゅう」建造の大きな動機のひとつは、「10年でマントルまで到達したい」ということであつた。しかし10年目でまだ到達していない。したがって、今度こそ「あと10年でマントルまで到達したい」ということであろう。

水深4,000mから7,000mまで掘削し、人類未到のマントルに到達する壮大な目標である。これらの掘削には地震の予知や解明のみならず、地球46億年の歴史、生命や宇宙などに関する人類の未知の発見に繋がる夢とロマンがある。

1968年に月を周回した宇宙飛行士が撮影した「地球の出」の写真を思い出して欲しい。地球は満々と水をたたえた大洋、酸素をたっぷり含む大気、そして生命が存在することが分かっている唯一の惑星で



ちきゅう全景 JAMSTEC ホームページ

ある。

近年海洋や大気はその長い歴史に類を見ないスピードで変化している。海面が上昇する一方、水温も上昇し酸性化も進んでいる。世界的に降雨パターンが変化し、気候も荒れ易くなっている。極の氷やツンドラの凍った土が融け動植物の生息地も変わっている。38万キロメートル離れた生命のない世界から撮影されたあの素晴らしい写真を見れば、この地球を愛おしく思わずにはいられない。私たち、いや人類が住める場所は他にはない。



ちきゅうの前で

「ちきゅう」は多くの年間維持運営費が必要とされている。しかしながら、年間調査活動日程のうち約半分は商業資源掘削事業で外部資金獲得に充てられ、研究用掘削に使えるのは約半分である。

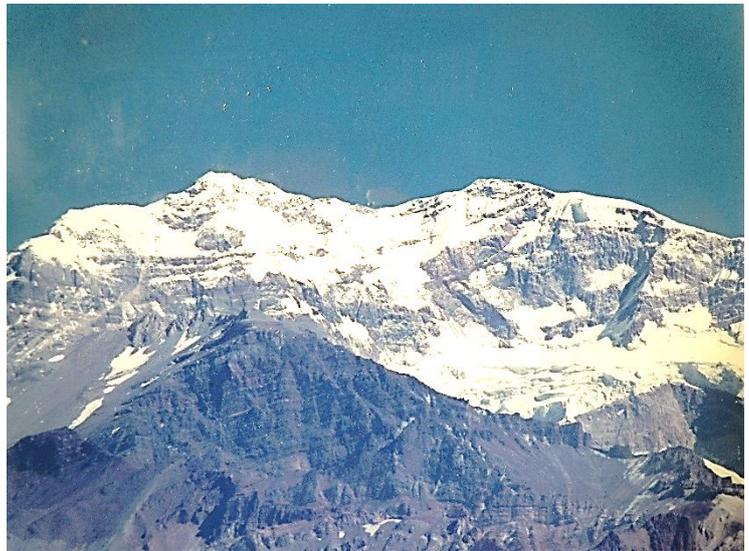
研究活動に対する万全のサポート体制整備が必要である。米国のような研究に対する助成制度の創設が待たれる。

最後になりましたが、「ちきゅう」見学の貴重な機会を与えていただき、ご尽力いただいた小林氏はじめ、「ちきゅう」関係者の皆様、及び、楽しい懇親会を設けて頂いた弟子丸氏に深謝申し上げます。

(2) 日々是好日

関西支部 昭和44年卒 農 長野 浅芳

振り返れば卒業して45年になり年齢70になろうとしています。ワングル新人時代は体力がなくいつもバテて先輩たちにご迷惑をおかけしました。社会人になってからはあまり山には登ってなかったですが、突如訳あって40歳になってから、毎年5大陸の最高峰を目指して3大陸まで登頂しましたが、次のマッキンリー挑戦は腰痛によりドタキャンしました。その混成チームは雪崩の頻発により登頂できませんでした。それ以来、山にはあまり関心がなく仕事の日々でした。退職してからはワングルOB会の有志で関東組と関西組で合流して信州近辺の山登りに参加しています。主に2年後輩の木村君が名幹事をして毎年続いています。皆さんも同じだと思いますが山よりもその後の懇親が楽しみで、この集まりもいつの間にか「ルート会」という名前になり、アットホームなフランクな会なので皆さんの参加を期待しています。今年は北上して9月に会津磐梯山に行きました。



又、今年の農学部ワングルOB会はゲンジ虫の舞う5月末にあの懐かしい惣野旅館で行い、酒宴の前には卒業以来の東鳳山に登りましたが、頂上は学生時代の面影は全くなくちょっとがっかりしました。7月には学生時代に北アの大キレットを縦走した時、上高地の帝国ホテルを横目に見ながら、いつか泊まりたいと思っていましたが、苦節45年、今年の7月にやっと家族で泊まる事が出来ました。

日頃は私が属している環境団体で主に京都や兵庫の山の間伐や植林、会津若松のリンゴ園で熊よけの電柵張などを行っています。

又、日常では前の会社現シスメックスの社友会の理事をさせられ、今年は3か月毎に本社で会議があり、まるでサラリーマンに戻ったような感じですが、その後の飲み会をエンジョイしています。



健康面では7年間通っているボクシングジムで週2~3回体力を鍛えています。ご存知のように練習はロープスキッピング、シャドー、ミット打ち、サンドバックと結構ハードでこれもいつ止めようかと思っていますが70歳で区切りにしようと考えています。おかげで健康を維持していますが、3か月前に突然腰痛になり、やはり年ですね。

来年の4月には7年に1回の諏訪大社の御柱祭りがあり、次の7年後は観られないかも知れないので来年観るのを楽しみにしています。

(3) 近況報告

山口支部 平成25年卒 農 馬屋原 範聡

私は大学院まで進学後、今年度新社会人として山口県で働きはじめ約半年が経過しました。この度は近況報告ということで、山口県に就職することになった経緯と、現在の仕事と山について簡単にお話をさせていただきます。

【働く意味に悩む就職活動】

大学卒業後は、大学院に進学しました。研究漬けの1年を過ごし、気づけば就職活動を始める時期になっていました。就職活動当初は、富山（アルプス目当てでした）から熊本まで幅広く、自分の専攻が活かせる新天地を求めて活動し、“あれもしたい、これもしたい”と忙しくしていました。

当然、選考が進むと志望動機についてこれまで以上に深く聞かれるようになりました。

面接では絞り出して何とか答えてはいましたが、移動中や気晴らしに街を散策する中で自分の就職活動の軸は何なのか疑問を感じるようになりました。

ちょうどそんなとき、2つ下の後輩の追い出しコンパがあると聞き、ワングルの空気を感じたくなり、参加しました。

【“山口県で”働きたい!】

追い出しコンパでは後輩たちと酒を飲み、卒業後や春合宿について楽しく話をすることができました。

しかしそれ以上に私が大きく影響を受けたのは、定年後の先輩OBの方々の話でした。OBの方々には慣れ親しんだ山口大学やワングルに愛着を持って追い出しコンパに参加されていました。

私が過去にOB会の事務局を務めたときもOBの方々からその愛着が感じられる場面があったことを思い出しました。そのとき「地元・山口県に愛着を持って働く」視点があることに気づきました。

そこで山口県内の募集要項など情報を集めて、県外での活動と並行して志望動機を準備すると「山口県で働く」ことがすんなりと自分の志望動機に馴染んでいきました。

それが就職活動の場を山口県内に絞ることになったきっかけです。背水の陣で臨んだおかげか、自分が第一志望とする職業に内定をいただくことができました。

【今の仕事と山】

私の職場は下関市にあります。下関市内を車で回りながら、農家の方と話し、畑の作物の調子を見ながら、自分なりに山口県のためになるようにと働いています。

そんな下関市には鬼ヶ城、竜王山、狗留孫山、一位ヶ岳など比較的高く、登りやすい山が多くあり、私の生活にはたびたび山が登場します。

そんな私の趣味を知った同期が、「山へつれてけー」と駄々をこねたので、まずは山口大学ワンダーフォーゲル部の庭“東鳳翔山”に連れていくことにしました。

登山ルートは王道の二ツ堂から。ルートの説明は不要ですね。9時30分ごろ出発し、山頂に着いたのが正午近くでした。同期は体力不足を痛感しつつも、山頂での景色と自分の足で登った後の達成感に魅了され、「また連れてってー」と言ってくれました。



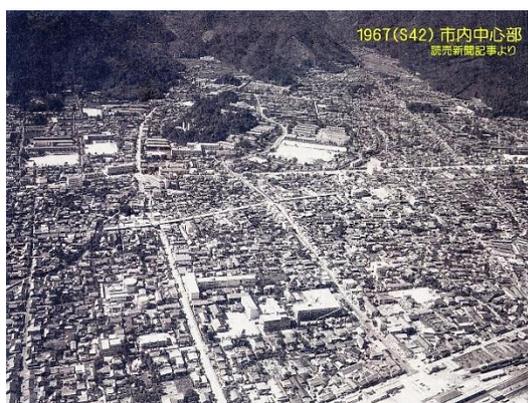
(上図：左から、私、N君、M君)。

同期の枠を広げて同好会でも立ち上げようかなんて話も出ています。ワンゲルで出会った“人”や“山”は今の私の人生を豊かにしていると感じる日々を過ごしております。

(4) 玄冬に感じる=時の流れは速いものである

九州支部 昭和39年卒 経済 永沼 嗣朗

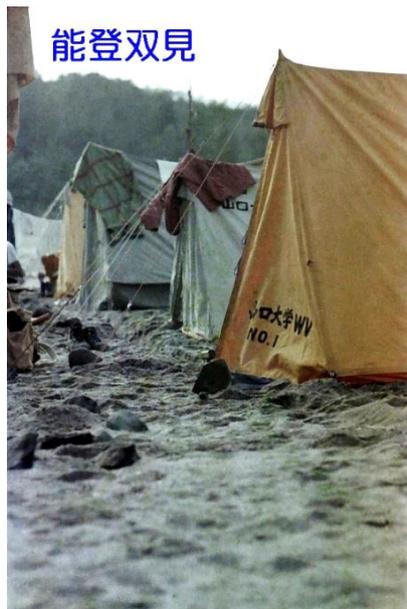
昨2014年11月に鳳陽会12期生の卒後50周年記念同期会が湯田温泉ホテル松政(旧千人湯)にて開催され出席した。参加する皆様に昔元気な頃の懐かしい写真を見て貰おうと、1960~1964年記録写真『我が青春の街、山口』と題してDVDを制作した。手持ちと同期生より借受けた昔のフィルム写真数百枚ならびに50年前と現在の山口市中心部の空撮写真を探し入手した。



市街地のシンボルであったサビエル記念聖堂（旧・新）を中心に添え、旧大学校舎・鳳陽寮・蒸気機関車と山口駅・市街地風景・12期生の面々の写真216枚を選び、宴会余興用に短くもなく長くもない頃合いの30分のスライドショーDVDに纏めた（卒業生150余名中、38名参加）。

これにより少し宴会を盛り上げたのだが、その時の記念写真を見ると、どこの爺さん達が写っているかと思いきや、その中に自分を見つけると時間経過の速さと年齢を実感せざるを得なかった。

約50年前の写真を眺め思い出して、ワングル創部の頃の事柄・大学生活・市街地の事を記してみた（前回投稿は奇しくも卒後40年の『ご先祖様の青春』であった）。



ワングル創部を思いついた頃は弓道部に所属して中四国大会・全国大会とかに出場し、これはこれで有意義な部活であったが、高校時代から休みとなると北アルプスに出掛けていた性分が頭を持ち上げ、堺原兄・末国兄他と創部に動いた。皆様のご支援もあり翌年には大学体育会の正式運動部として承認がおりて初めて購入したのがNo.1と記した黄色いテントでした。



寮生活（寮費は覚えていないが食費は一日三食100円）の事を少し記述すると鳳陽寮は棟対抗の寮祭・文化祭があった。その際には街の人が寮内の部屋毎の飾りを見物に来て食堂では食べ物飲み物を提供した、いわゆるバザー。また寮祭仮装行列は商店街のメインストリートを練り歩くのが恒例であった。



2年間で鳳陽寮から追い出されました（悪い事をした訳ではなく後輩達に部屋を空けるルールがあった）。3年生からは学生課が紹介してくれ



た下宿屋に移った、確か6畳で月家賃2000円。下宿といっても間借りであり、食事は街中に沢山あるいわゆる賄屋で摂るのが一般的なスタイルであった。朝昼晩とも賄屋の棚に置かれている好きなおかずを選び食事して、代金は店のノートに記帳するだけのツケ払いで月末に精算する大らかさであった。下宿・賄屋・学部・部室を自転車で往復する生活であった。当時は町に大学が溶け込んでいたように思える。大学生と駐屯自衛隊員は大きな消費者であり、受け皿の

一つとして喫茶店、パチンコ屋と小さなスナックが沢山あった。上述のワングル旗揚げも喫茶店ヴィーナスを舞台にした事を思い出す。

4年生になると就職活動であるが就職率100%であったので、学生課に置いてあるパンフレットを



見て希望企業複数社を記して提出しておく、多分成績の良い順だと推測するが呼出しがあり、推薦状を持って、その企業に面接に出掛ける(筆記試験は多分無かった、山口~東京間の列車代の支給があった)。当時はインターネットもなかったので採用通知は電報で来た。ルールとして最初に採用通知が来た企業に決めることになっていたの、企業は本人と大学に電報を発信したようだ。昔であったので興信所が実家の近所の家に身元調査に来たらしく、近所の人がいち早く就職情報を得ていたようだ。現在の就活・採用システムは自由万端であろうが、応募側・採用側とも数千倍数万倍の量的時間的に大変な労力であろうと敬服する。

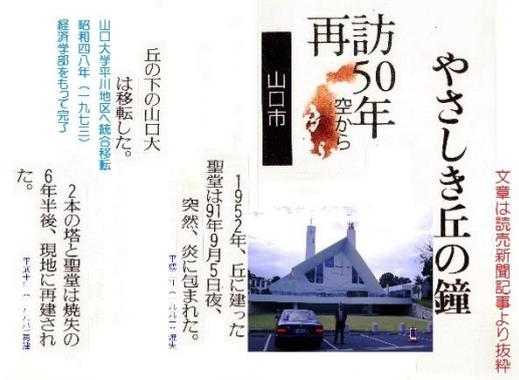
ダラダラと学生時代の事を記したが、ワングルのホームページについて改革提案をしたい。一生懸命努力してホームページを開設した崎間兄に敬意を表し、皆の協力を得て昔の機関誌を集め、電子化してアップして貰ったが、一つ大きな失念をしていた。それは検索システムを忘れていたことである。

この原稿を書くにあたり、自分が何時の機関誌に何を書いたのかを知る為に OB 会ホームページをザッと見るだけでも半日掛かった。その中で時代の異なる各人が同じピーク或いはフィールドにワンデリングに出掛けている事も発見した。

ガリ版刷りの良く見えない昔の物もあるが、膨大な蓄積資料であるので、例えば「能登半島」とか、「白馬岳」とかキーワードを入力すると過去のデータを引き出せるようにする必要がある。過去の機関誌を集めるだけでも2005年から2012年までを費やした。検索システムを構築するにも容易ではないが徐々に実現する事を望む。

因みに小生が寄稿した主な記事は下記のとおりです、お暇な方はどうぞ！

- 1963年昭和38年 鳳翔創刊記念号 「ワングル創業」←手書きガリ版刷りである。
- 1964年昭和39年 三学部合同創刊記念号 「最後の夏山」
- 1965年昭和40年 あるきの記第一号 「ワングル真髓」
- 2004年平成16年 OB 通信第二号 OB 会活動「ご先祖様の青春」



7 北から南から

(1) YUWVOBロートル会に初めて参加して

東京支部 昭和44年卒 農 原 具寛

同期の長野君(今回の幹事役)よりの誘いで今回初めて会津若松にての会に参加させていただきました。活動の日をあえてウィークデイとすることでより安価に移動できかつ混雑も避けられる利点もありリタイア一組にはもってこいの会のようです。私は今年で古希一歩手前ですが、退職後も常勤パートと認知症専門病院に勤務している関係上、自由には動きにくい、休みが取れないかもしれないとの配慮からか?お誘いから除外されていたようです。今回は半年前からそろそろリタイアの気持ちを言い出したのを聞きつけられ、お誘いとなったようです。

会津磐梯山(標高 1816M)の登山がメインでしたが、懇親会を楽しみに参加されるメンバーも。去る8月31日(月)~9月2日(水)会への参加者は、堺原(S40.3 経済)、長野(S44.3 農)、守沖(S44.3 農)夫妻、木村(S46.3 文理)夫妻、三浦(S47.3 工)、小田(S48.3 経済)(敬称略)総勢9名でした。

8月31日の16:00に会津若松七日町「たかた」旅館集合。前線が停滞して、降ったりやんだりのあいにくの空模様でした。前夜祭で早速夕食を囲みながら懇親会、長野幹事のあいさつの後、堺原先輩の乾杯のあいさつの後、会津流おもてなしで食べきれないほどの品数に舌鼓をうちながら、もちろん般若湯を頂きながら。近況報告や情報交換に花が咲きました。翌日の登山は空模様をみながら考えようとのことで飲酒もほどほどに?入眠しました。

9月1日(火)空模様は雨が強く降ったり、小やみになったりと決断に悩むところとなりました。とにかく登山口までは皆でいきましょうと、ナビ車を先頭に車4台に分乗し八方台登山口に向かいました。八方台では雨はやや小ぶりになったものの、止むことはなく眺望は望めそうもない天候でした。結局堺原氏、木村氏、三浦氏、小田氏、原の5名が登山決行を決め、雨具を装着し10:30頃出発しました。残留組は市内散策や「くまんち」見学予定で別れました。

登山道は雨のせいもあり、ぬかるんだところもたびたびありました。しばらくは道幅も広めでなだらかなのぼりで、一本目の休憩は中の湯(休業中の温泉場)周囲は硫黄臭が立ち込めていました。久しぶりの登山のため、ほかの皆さんに迷惑をかけてはいけないと、必死に前の人に遅れないように歩きました。雨で滑りやすくがれきや倒木には苦労しました。雨具のせいで発汗著しく、着衣調整をしながらののぼりでした。途中は低く垂れこめた雲のせいで視界ゼロ、展望所と思しきところからも何も見えず、数本の休憩の後、弘法清水小屋に到着、めいめい水分補給やおにぎりでエネルギーを補いました。小屋の前の湧水の冷たさに一服の清涼感がありました。小屋では温かい汁物をすすめていましたが、記念のバッジのみ購入しました。中学生とみられる生徒の集団も休憩しており、にぎやかな雰囲気でした。その生徒たちは天候の関係で頂上は目指さず、下山するとのことでした。



休憩後急な斜面を30分ぐらいのぼり頂上に到達、しかし周りは五里霧中で視界は全く望めず、記念撮影兼小休止、そこそこに帰路につきました。思いのほか下山にはエネルギーを要し、石ころに足をとられながら必死に足を運びました。下りには弘法清水小屋からお花畑経由で少し迂回したルートをとりましたが、わずかな時間少しだけ視界が良くなった時に、一瞬の眺望の素晴らしさに息をのみました。少し時期遅れで花数は多くはなかったのですが、高山植物の花見も楽しむことができました。ずっと以前の噴火の後の溶岩の一部が岩壁を呈した光景もわずかな時間で見ることができました。別の場所からの光景も願いましたが、期待外れに終わり、結局下山途中からの頂上の遠望が見られただけでした。



午後4時ごろ八方台登山口に無事到着、今宵の宿の東山温泉「新瀧」へ小田氏の車に同乗させていただきました。温泉入浴（新選組の剣客土方歳三が傷をいやしたという）で汗を流し疲れを癒しました。

夕食はマイクロバスのお迎えで料亭「停車場」にて懇親会。移動の途中には若松城（鶴ヶ城）の天守閣も見えました。会場には北島三郎似のご主人と山好きの長野幹事のお友達、いづれも自然保護を主張される幹事のお仲間も加わり、長州との因縁の土地での会食は一昔前の世相を考えると意味深なものがありました。女将の奥さんや娘さんも接待に加わり、ここでも会津のおもてなしを感じました。山口大学の日本酒や地酒に酔いも最高潮で、宿に戻りました。



翌日は各々の予定にてホテルにて解散。三浦氏と小田氏と、私は小田氏にまた同乗させていただき「くまんち」・・・自然保護のためボランティアでくま（ふくちゃん）を飼育されている場所を訪問、皆さんからお預かりした募金をお渡ししました。子供から育てられたくま「ふくちゃん」と、捕獲されたくまの2頭のほか猫や犬が保護されていました。ふくちゃんには餌やりのお手伝いを経験させ頂きました。かわいいしぐさに感激でし

た。はちみつが好物のようでした。ボランティアで維持されていくには大変な苦勞があるのではと推測しました。

会津若松駅まで同乗で送っていただき小田氏、三浦氏とお別れしました。郡山から東京まで新幹線では堺原氏と同席させていただき、いろいろと貴重なお話を伺わせていただきました。1時間ちょっとで東京着、そこでお別れ、自宅に帰りました。あっという間の3日間でしたが、天候にはいまいち恵まれませんでした。初参加にもかかわらず、気持ちよく過ごさせていただき、幹事はじめ参加の皆さんに心より感謝申し上げます。またのお誘いが楽しみです。ありがとうございました。

(2) 屋久島紀行

東京支部 昭和47年卒 工 福永 俊美

昨年3月に仕事も完全に止め毎日が日曜日の状況となりました。土曜、日曜は団地のテニスクラブにて遊んでいましたが、平日は家でブラブラしていてもしょうがないので何かやりたいなと思っていたところ、千葉市広報紙にて千葉市ことぶき大学校（いわゆる老人大学）があることを知り、入学し1年間陶芸を勉強することにしました。週1、2回の授業とクラブ活動（茶道部、書道部、歴史散歩クラブ）で平日3-4日/週は予定が埋まることとなりました。その後元の会社からOB会の案内があり参加してみると、山の会OB会が存在しており「小野田山の会」先輩から入会を勧められ即決断しました。月1回の例会山行が予定されており、会社OBの方々なので原則平日の山行も私の行動にぴったり合っていました。こうして会社現役時代と同様にほぼ毎日がなんらかの活動の出来る状況になり1年がスタートしました。

一方それまでもワンゲルOB会の山行には時々参加していましたが、会社現役の方も多数いるので主に土曜、日曜に企画され、団地テニスクラブ及び歴史散歩クラブの行事と重なり、なかなか参加できない状況になってしまいました。

今年になり「小野田山の会」の年間予定表で6月末に屋久島宮之浦岳登山が計画され、参加することに決めました。その理由は、大学3年末の春合宿で屋久島に行きましたが雨で宮之浦岳は登山できなかったとの記憶から今回は是非登頂したいと思ったからです。

屋久島に行く前に足慣らしの山行が予定されましたが、4月、5月の日帰り山行、5月1泊2日甲武信岳山行といずれも予定が重なり参加できませんでした。

6月11日神奈川県丹沢塔の岳 1941m（標高差約1200m）が最後の山行で、登頂できると宮之浦岳に同行可能との判断でした。参加メンバーは私を含めて男性4名、女性3名、年齢65歳から75歳。私が最年少であり、最近の山行は殆ど無いがテニスにて遊んでいるし、大丈夫だろうと思い参加。最初の1時間はゆっくりペースで順調、次の1時間半は先頭に着いてかなりのペースで登り、休憩無しのためか、脚がつりそうになってしまい、結局一人途中にて下山。無理すれば登頂できたかもしれないが、万が一を考え断念した。反省点は錬成不足、サプリメントや薬の不備。

その後6月13日東京支部惣岳山 756mへの山行。今回は皆さんと一緒にペースでどうにか登頂できた。次の日から毎日10kgを背負って近所の散歩で1-2時間の錬成、サプリメント・アミノバイタルプロの購入、脚がついた時の為の漢方薬ツムラ68番を準備し、6月19日に丹沢塔の岳に再チャレンジし、3時間40分で登山、3時間10分で無事下山できた事で屋久島同行の許可が出ました。

6月28日 羽田発～鹿児島空港～鹿児島～高速フェリーにて屋久島へ。
学生時代に宇部新川駅を出発し列車に揺られ、フェリーにて船酔いしながら屋久島に着いた記憶では丸2日かかったのに比べれば、あっと言う間に来てしまった感であった。

6月29日 朝ジャンボタクシーにて荒川登山口へ

以下同行先輩の登山記録をほぼそのまま記載

縄文杉班：男性1名女性2名、宮之浦岳班：男性3名女性1名（7名の平均年齢72歳）

（標準コースタイムは地図上のもの、実績タイムは休憩時間を除いた正味のタイムです）

1日目(合同) ①荒川口～大株歩道入り口（トロッコ道）…標準コースタイム 2.20分
実績タイム 2.30分 対1.07倍
②大株歩道入り口～縄文杉（本格上り）…標準コースタイム 1.50分
実績タイム 2.10分 対1.18倍
平均 → 対1.12倍（ますます）

《 以下 宮之浦岳組 》

③縄文杉～新高塚小屋 …標準コースタイム 1.30分

実績タイム 1.10分 対0.78倍（立派なものです）

6月30日

- 2日目 ①縄文杉～宮之浦岳(上り) …標準コースタイム 3.20分
実績タイム 2.50分 対0.85倍(素晴らしいです)
- ②宮之浦岳～淀川口(下り) …標準コースタイム 4.25分
実績タイム 5.10分 対1.17倍(時間が掛かりました)
平均 → 対1.03倍

1日目の合同での、荒川口から大株歩道入り口までの平坦なトロッコ道のコースタイムと、そこから縄文杉までの上りのコースタイムとでは若干ペースに違いが生じましたが、雨天の中での全員での行動としてはまずまずではなかったかと思っています。(片道4.10分のところを30分オーバーで済みました)一方、その後の宮之浦岳組は1日目の、縄文杉～新高塚小屋までの上りのコースタイムは驚異的なものでした。(1.30分のところを、20分も短縮したのですから)また、2日目の小屋から宮之浦岳までの上りでは途中から雨足も強くなり、視界も妨げられる状況下でしたが、標準コースタイムを3.20分のところを30分も短縮できたことは喜びです。但し、そこから淀川口までの下り道(下りといっても結構アップダウンは多かった)は、いよいよ風雨も強くなり(時折り雷も鳴り)、コース道は沢化し苦戦を強いられる箇所もあった為か、かなりの時間を超過しました。(下り、4.25分のところを45分オーバー)それでも淀川口の待ち合せ時間には十分な余裕があり、途中の淀川小屋で時間調整をし、最終の淀川口に下山できました。



雨の花之江河



宮之浦山頂



沢化した道

ホテルにて宮之浦岳班、縄文杉班と合流し、その夜は登頂の喜びを屋久島産焼酎「三岳」で乾杯し皆で祝いました。また最年長者の先輩は太極拳を披露され毎日欠かさず鍛錬していると話され、確かに山小屋にて朝早く運動されており健康の秘訣と思いました。またメンバーの二人は民生委員を務めており、いろいろな話を聞き勉強になりました。

7月1日 午前中は屋久島環境文化村センターにて屋久島の歴史・自然を学び、午後は関係会社である屋久島電工の工場見学をさせて頂きました。学生時代に船がこの島に近づいて来て、煙突から煙を吐き出していたのを見た時、この素晴らしい自然をむしばむ会社はケシカランと憤慨しましたが、現在は環境対策も整備され煙も排出して無く、豊富な雨を利用して3つの水力発電所とダムによるクリーンエネルギーにて島内の電力供給と炭化ケイ素の製造販売を実施しているとのことだった。年に1,2回雨量が少なく発電量が少ない時に火力発電を実施するときのみボイラー稼働するとの説明だった。帰りは屋久島空港から鹿児島空港、羽田とあっという間に帰京できた。

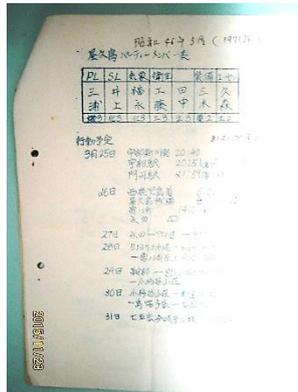
天候に関しては6月下旬が良いとの会社先輩の発言により計画されたが、4日間雨ばかりであり、どこかの情報だったのか疑問が残った山行だった。現地タクシー運転手の話では、5月ゴールデンウィークの後が観光客も少なく新緑も美しく来年また是非遊びにきて下さいと、熱心に語られた。

宮之浦岳登頂が出来て喜んでいたら、段ボールの中から学生時代の合宿記録が出てきて、東京支部会合にて屋久島の話をする時合宿メンバーの三浦氏(S47年卒)、三木氏(S48年卒)の二人が宮之浦岳は登ったと伝えられ、私の記憶では永田岳は登ったが宮之浦岳は記憶が無いと返答。その後の会合で三木氏より証拠写真を持参され・・・

91歳の母親が3、4年前からアルツハイマー型認知症になったが、イカン、イカン 宮之浦岳の記憶が欠落、私の認知症が始まってしまったらしい。ワングルOB会に出来るだけ参加し、身体と頭を鍛えなければと思っている今日この頃です。



昭和46年春合宿帳



フェリーパンフレット

(3) 四国八十八か所霊場・歩き遍路 1200 km

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

今年、四国八十八か所の札所一周を一気に歩いて参拝する(通し打ち)巡礼をしました。9月18日に徳島県の1番札所・霊山寺を出発し、4県を時計方向に周り、51日目の11月7日に香川県の88番札所・大窪寺に到着、満願(結願/けちがん)することができました。



9/18: 1番・霊山寺にて

9月18日: 1番札所の前の店で巡礼用品として、菅笠(すげがさ)、白衣(びやくえ)、輪袈裟(わけさ)、金剛杖、念珠・経本、さんや袋、納経帳、納札(おさめふだ)を買い、遍路姿となり、いよいよ出発。この日は2番・極楽寺の宿坊に泊めてもらう。ちなみに、2食付6,480円。

9月19日: 5か所のお寺が近くにあり、約16kmの歩きで済み、7番・十楽寺の宿坊泊。

9月20日: 八十八か所中唯一広々とした田園中に建つ9番・法輪寺などを巡り、JR鴨島駅前にある遍路用の桜旅館(2食付6,300円、ビール400円)に宿泊。



9/20: 唯一田園中に建つ9番・法輪寺



9/20: 10番・切幡寺の日本で唯一、一層目二層ともに方形の大塔

9月21日: 11番の後、標高938mの中腹で四国霊場2番目に高い所にあり、札所中一番の難所で「へんろころがし」といわれている12番・焼山寺に向う。雨が時々降る山道を進み、焼山寺の宿坊に宿泊予約電話をすると、今日は一杯とのこと。焼山寺過ぎの2か所の民宿も同様で、もっと下ると5か所に民宿などがあれど、歩20kmからさらに雨の中をヘッドランプを付け下山するのは危険と困りはてた。この時、偶然地元の人と一緒にになり、事情をいうと、よく知っている民宿・すだち館に電話してくれ、使っていないポロポロの離れに泊めてもらえることとなった。



9/21: 12番・焼山寺の仁王門へ

ランプを付け、ようやくたどり着くと、老人夫婦が量・質ともに豊富な夕食を出してくれ、おまけに公設の日帰り温泉に車で連れていってくれた。すだち館泊。

9月22日：ひたすら歩いて13番・大日寺の宿坊泊。コインランドリーで暑さと重いザック（約7kg）のため汗でビシャビシャになった下着からワイシャツ・ズボンなど全てを洗濯。

9月23日：四国霊場中で唯一、弥勒菩薩を本尊としている14番・常楽寺など4札所を参拝し、徳島駅前の東急イン泊。素泊7,000円、夕食はラーメン店（ご当地ラーメン・徳島ラーメン）で済ます。



9月24日：弘法大師の母が剃髪された18番・恩山寺から、本堂に豪華絢爛な天井画がある19番・立江寺の宿坊泊。

9月25日：難所「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」と呼ばれ、標高475mの山深にある20番・鶴林寺、600mの山頂付近の21番・太龍寺を参り、ヘッドランプを付け約27kmを歩き、道の宿そわかに着いた時はヘタヘタと座り込んだ。

9月26日：参拝は22番・平等寺のみであったが、天候が良すぎる暑さの中、歩32kmで疲れた。太平洋に面した民宿ゆき荘泊。



9月27日：しばらく太平洋の大海原と海岸線を楽しむこともでき、歩27kmで民宿あずまに着いた時、左足かかとの上側約4cm位が薄赤色に少しはれ、押さえると鈍痛、かかとも押さえると少し痛い。

9月28日：国道22号を絶景の太平洋を眺めながら歩くが、左足の膝関節（50歳のとき早くも軟骨摩耗の症状発生）の前側が押さえると痛く、関節に痛みはないが少しはれているよう。このため、予約宿を変更し、歩12kmで、民宿海部に14:30着、休養の日とする。

9月29日・遍路12日目：いよいよ高知県に達した。しかし、左足の調子は変わらず。通し打ちは無理、歩ける所まで行き一旦帰り、いつの日か続けようと思う。また、巡礼にも疑問を持つようになり、何を達成することが出来るのだろうかと自問しながら、歩12kmで早々にホワイトビーチホテル泊。

9月30日：23番以降参拝なしで（24番まで約77kmの長丁場）国道55号をひたすら室戸岬を目指す。行きかう車が邪魔だが、歩道が整備されており、常に左手に見える絶景の太平洋を楽しむ。巡礼への疑問が残るが、歩20kmで民宿尾崎に着。計画から少しずつ遅れていた歩き距離が約2日遅れ。足の様子はほぼ全快のよう。何も治療しないのに、人の体は自己回復力が本来強いのだと感心。

10月1日：午前中雨、午後時々雨であったが、太平洋とともに体の不安はほぼ解消、巡礼への疑問も。室戸岬の24番・最御崎寺に到達。本堂（本尊）と大師堂（大師）への納札、読経を心新たに行い、また納経・御影（みえい）も一段と有難く受け取った。宿坊泊。

10月2日：室戸岬から西海岸の大きな奇岩などを見ながら歩き、国道55号から少し入った高台にある26番・金剛頂寺宿坊泊。



10/2：自転車遍路の若者



10/2：25番・津照寺の観光バス遍路者

10月3日：土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線始発奈半利駅近くのホテルなはり泊。

10月4日：険しい山道を往復し、27番・神峯寺の名水「神峯の水」でのどを潤し、再び国道55号を進みビジネスホテル弁長泊。

10月5日：曇空の下、太平洋を見ながら国道とほとんど並行する遍路道。旅館かとり宿泊。

10月6日：海岸線から入った3札所を巡り、サンピセリーズ泊。

10月7日：快晴。歩道が極狭くて車の当て逃げを気にしながら浦戸大橋を渡り、すっかり暗くなった33番・雪隠寺前の高知屋に着いたときは計画よりも3日遅れ。

10月8日：午前快晴。海岸から入った35番・清滝時では高さ15mもある薬師如来像を拝み、歩29kmで温泉・へんろ山陽荘泊。立派な宿で丹波哲郎、貴乃花、高田美和などが宿泊したときの写真、サインなどが展示されており、遍路宿としては2食付9,870円と高価。

10月9日：曇時々晴。仁王門から本堂まで170段の急な階段がある36番・青龍寺を過ぎ、土佐湾と浦ノ内湾に挟まれた横浪スカイラインは高く、太平洋の眺望が非常に良い。民宿ひかり泊。

10月10日：本堂にある575枚の鮮やかな天井画が見事な37番・岩本寺、宿坊泊。

10月11日：曇時々晴。37番から足摺岬先端の38番・金剛福寺までは四国遍路中最も長い行程で、歩約85km。10月とは言えまだまだ暑く、自動販売機の飲料水をゴクゴクと飲み、汗まみれになりながら、足摺を目指し、歩24kmで、民宿たかはま泊。

10月12日：歩31kmで民宿安宿（あんしゅく）泊。このところ、夕食には土佐の「かつお」がたっぷり。

10月13日：快晴。海岸の県道・国道27号をひたすら歩き、22kmで足摺着。海に映える足摺岬灯台などを観光。宿泊は金剛福寺宿坊を計画していたが、断られた（後に分かったが、団体が入っていないと効率が悪い個人遍路は断る）民宿足摺はっつ泊。

10月14日：快晴。足摺西海岸を引き返し歩24km、民宿久百々泊、むすび弁当の接待を受ける。

10月15日：海岸から入った三原村経由ルートを選び歩31kmで、39番・延光寺前の民宿嶋屋泊。

10月16日・遍路29日目：晴。ああー、愛媛県に入った。通し打ち、可能では、1日遅れを取り戻し計画より遅れ2日。歩29kmで40番・観自在寺宿坊泊。素泊のみ可。これまで途中何度も出会ったフランスの男性と一緒にになり、日本語は「ありがとう、こんにちは」位しか話せないが、私の単語を並べただけのつたない英会話をしながら食堂で夕食。これまでも欧米の人の遍路が目立つ。

10月17日：快晴。早朝40番を参拝し、41番・龍光寺に向け、複雑に出入りした海岸線を楽しみながら歩26kmで、民宿三好旅館泊。

10月18日：晴。海岸から少し入った遍路道、宇和島城を撮影でき、ビジネスホテル鶴島宿泊。

10月19日：晴。海岸から入った所、歩23kmで3札所を巡り、43番・明石寺近くの民宿まつちや旅館泊。むすび弁当接待。

10月20日：晴。大分内陸部の遍路道となり、43番から歩75kmと長丁場になる44番・大宝寺を目指す。歩33kmで夜の内子座（大正時代建築の歌舞伎場）を見物し、民宿シャロン泊。

10月21日：晴。早朝、風情ある古い内子の町並みを歩く。途中、午後4時頃に「へんろみち保存協会」が付けた遍路道標識を見落としたのか、遍路道からそれた道に迷い込みアワヤ野宿（ザックには寝袋を入れている）となるどころ、地元の人に教えられ、車で迷い込んだ所まで送ってもらった。民宿ガーデンタイム泊。

10月22日：44番と石の不動明王が岩壁間に押し込まれ、岩山全体が本堂となっている45番・岩屋寺を巡る。この近くには古岩屋と呼ばれる高さ60~100mの岩山が多数あり、色つき始めた木々の葉が初秋を伝えてくれた。民宿一里木泊。

10月23日：晴。歩19kmで46番・浄瑠璃寺門前の民宿旅館長珍屋泊。

10月24日：歩16kmで、国宝の本尊・堂塔・仁王門など四国霊場中で最多の文化財がある51番・石手寺など5札所を巡り、松山ユースホステル宿泊、2食付5,076円。夏目漱石・坊ちゃんも好んだと言う、道後温泉本館が歩6分にあり、入浴、疲れをいやした。

10月25日：晴。52番と隠れキリシタンを黙認していたと思えるキリシタン灯籠がある53番・円明寺を参拝し、瀬戸内海沿いの車道を心なしか太平洋と違い、穏やかで海水の澄具合がやや良くないので

はと思える瀬戸の海と島々を眺めながら歩 25 km で、北条水軍ユースホテル泊。

10月26日：晴。道路標識にある「しまなみ海道」を見て、以前何度も参加した「しまなみ海道 100 km ウルトラ遠足(マラソン)」を懐かしく思い出しながら、54番と四国霊場のうち唯一なぜか「坊」が付く55番・南光坊を参拝し、ビジネス旅館笑福泊。

10月27日：午後曇一時小雨。歩 21 km で4札所を巡り、昨年「しまなみ海道 100 km ウルトラ」後に宿泊した今治湯ノ浦温泉に宿泊。日程の遅れを取り戻し計画より1日遅れ。

10月28日：晴時々曇。石鎚山の中腹にある60番・横峰寺を参拝し、歩 27 km で、薄暗がりに浮かび上がる黒瀬湖畔の温泉旅館京屋支店泊。

10月29日：晴時々曇。4札所を巡るが、道に迷って2時間位ロスし、歩 16 km (ロス歩を含まず)でビジネス旅館にぎたつ宿泊。

10月30日：国道11号あるいは並行した車道を歩 24 km、途中500円札、1,000円札と2度お金の接待を受けた。これまでも高知県内で500円札を受け、みかんや飴玉も何度も受けた。高い遍路文化を思い、勇気付けられる。松屋旅館泊。

10月31日：晴。山の中腹にあり、弘法大師が秘法を修めた跡といわれる三角池がある65番・三角寺に参り、これまでの宿での夕食時の同宿者の評判が良かった民宿岡田泊。評判通りの設備、対応だった。

11月1日・遍路45日目：さあーいよいよ最終の香川県に達する。いきなり標高927m、四国霊場中一番の高所で「遍路ころがし」と呼ばれる山道を登り、参道に500体もの石の羅漢像が延々と並んでいる66番・雲辺寺を参拝。民宿大平泊。



11/1：66番・雲辺寺の羅漢像

11月2日：午前雨。歩 25 km、3札所を参拝し、天然いやだに温泉ふれあいパークみの泊。素泊6,480円だが食堂で夕食850円。

11月3日：東院と西院に分かれた広大な境内に高さ43mの五重の塔や弘法大師誕生のときから繁茂していたと伝わる大楠、大師誕生の邸宅跡地に建つ御影堂など多数の見べきものがある75番・善通寺など今回巡礼で1日最多の7札所を駆け足で参拝した。11月3日は丁度秋の、「善通寺空海まつり」で多くの人でごった返していた。ホテルサンルート瀬戸大橋泊。

11月4日：高台の境内から瀬戸大橋を望める78番・郷照寺から遍路道は少し内陸部に入り、全国でも数件しかない珍しい山輪鳥居がある79番・天皇寺など4札所を歩 30 km の車道と山道で巡り、暗くなった喝破禅道場に宿泊。お寺が数か月間の精神修業者のための場として設けた施設で、朝の座禅と講話を一般人にも参加させていた。



11/3：75番、善通寺空海まつり

11月5日：曇。伝説の牛鬼の像がある82番・根香寺を参拝し下山。83番を参拝後、亡き両親の思い出の地である高松市の国指定特別名勝栗林公園を散策し、歩 27 km でささや旅館泊。

11月6日：曇。山道を息を切らせながら屋島に登り、源平合戦の壇の浦を見渡し、屋島寺を参拝後、2札所を巡り、歩 27 km。民宿ながお路泊。

11月7日・遍路51日目：曇一時小雨。早朝の57番・長尾寺では源義経と惜別した静御前が母の磯禪尼とともに故郷に帰り、この寺で得度した際に落とした髪を埋めたとされる静御前剃髪塚に目を引かれた。次いで、霊場最後の札所となる88番・大窪時へ。途中、前山ダム脇のおへんろ交流サロンで歩き遍路結願を証する「四国八十八か所遍路大使任命書」を頂いた。雨の天気予報と一昨日から生じた左足中指のはれの下、最後に足を滑らせころんだのでは笑うに笑えないと慎重を期し、山道を避け車道を登り、歩約16 km で大窪寺着。大窪寺は門前街を成し、観光客と遍路でごった返している。これが最後と

いう思いの下、納札、般若心経を唱え、他の札所と違い結願所の印がある納経を書いてもらい、御影を頂き、51 日間の通し打ち歩き遍路を終えた。



11/7 : 88 番・大窪寺にて



大窪寺の納経書

思い返せば、ここに書ききれない風景や人との出会い、宿泊所予約の苦勞、体調の不安などがあったが、何といっても道中、出会った人達に支えられて成し遂げた結願でした。合掌。

若い時から新聞・テレビで見る四国遍路に興味を持ち、一度は自分も、それも遍路の基本は昔ながらの歩きで通し打ちと考えていました。しかしこの 2、3 年、年毎に衰える体力が目立ち、今年 72 歳でゆっくり登ったハヶ岳・赤岳、富士山での状況から、遍路可能は今年が最後と考え、急ぎ資料を調べ実行に移した。全く遍路の経験なしで 1200 km もの歩き通し打ちは無謀だったかも知れません。

さて、肝心の遍路で得られたものだが、それは「無の心」でしょう。剣道などでもその道を極め、無心を会得するという。何度か聞いた宿坊での朝の講話でも良くわからなかったが、そのように思えます。もっとはっきり言えることは、山登りやマラソンと同様に達成感を得られたことです。また、自分の体力に自信を取り戻せたことが大きい。まだまだ今後も、山登りなど屋外での楽しみを続けられそうです。



1 番から 88 番までの御影

8 同期会だより

(1) 還暦同期会

東京支部 昭和 53 年卒 経済 秋山 高弘

私たち昭和 49 年入学組は、今年還暦を迎えます。これを機に集まりたいねと声上がり、山口総会の翌日、大河ドラマと世界遺産登録に沸く萩で還暦同期会を開催しました。13 名もの仲間が集まり、懐かしく楽しいひと時を過ごしました。

参加者 (13 名)

田村 (浩) 弟子丸、中村、山本、森、高月、藤井、真島、牧野、西、光吉、田村 (伊)、秋山

11 月 8 日 (日)

山口から萩へ

山口総会出席組は 2 台の車に分乗し、まずは津和野へと出発。

途中懐かしい十種ヶ峰を見ながら、太鼓谷稲成（知ってますか、稲成と書くのは津和野だけだそうです）へ。参拝後歩いて鳥居を下り町並み散策後、一路萩へ。

萩市内観光①

ホテルにて、萩直行組と合流し、小型バスで市内観光へ。世界遺産に登録された、反射炉や造船所跡を見学後、松下村塾や伊藤博文邸を経て、萩城址を散策しました。

懇親会

宿泊ホテル内の店で懇親会を行いました。各自近況報告を行い、持参したアルバムを見ながら昔話に話が弾みました。二次会は隣のカラオケBOXへ。山の歌（ご存知ですか、カラオケには意外に山の歌が入っているんです）を歌った後は、懐かしい大学時代のヒット曲を皆でたくさん歌いました。

最後に、巻頭言に続く大山讃歌を皆で歌い、お開きとなりました。巻頭言は「感激あれ若人よ」で始まりますが、「還暦なる我が友よ」と詞を変えての雄叫びでした。



11月9日（月）

萩市内観光②

この日もあいにくの雨でしたので、花燃ゆドラマ館、萩博物館を見学後、各自帰りの交通機関の時刻に合わせ、散会となりました。

同窓会を終えて

やはり同期はいい、これが率直な感想です。卒業以来初めて会う友もいましたが、全く時の経過を感じませんでした。先輩方もよく同期で集まっておられますが、私たちもこれを機に時々集まれればと思います。また、後輩にもそろそろ集まったらいいよと伝えたいと思いました。



（2）平成27年「昭和50年組同期山行：尾瀬」

東京支部 昭和50年卒 経済 原口 孝志

今回のメンバーは男性 宮原君 伊藤君 尾儀君 金子君 石津君 本園君 私の7名
女性 前原さん 中澤（浜重）さん 北原（松岡）さん 藤野（西山）さんの4名

7月25日（土）

関越交通の尾瀬号には東京組3名が乗り、大清水についたのが11時過ぎ、既に九州組と大阪組が集合していた。遅れて、宮原くんが到着して全員11名が揃う。

この山行はH20年の博多の「一期一会」というフグ料理店の同窓会から、始まった。蝶・常念をスタ

ートに7回目になる。昨年の御嶽山は天候に恵まれ、温泉三昧、噴火に遭遇することもなく幸いでした。

お昼を取って出発。幅広の砂利道の両側にはブナ・ミズナラなどの広葉樹が見られ、それぞれのペースでばらばらに歩く。途中、旧道入口で小休止。片品川に架かる橋を渡って山道に入る。

道幅は狭まり、急坂の登りになる。荷は重くないのに、足取りは重い。この辺から、針葉樹も混じり始めた。石清水を過ぎる頃、息が切れ、汗が噴き出てくる。沢音とともに「ヤッホー」と声を上げながら、中高生たちが通り過ぎる。ほどなくして、三平峠(1762M)に着く。「尾瀬」と大きく書かれた表示板の前で記念写真。此処から、木の階段を下って、15分程度で尾瀬沼の南岸、三平下に到着する。



沼畔には豊かな水をたたえた尾瀬沼と燧ヶ岳 ニッコウキスゲがちらほら。今日のお宿は長蔵小屋。全員で一室。二段ベットと畳で結構広い。早速サンビールとおつまみで疲れを癒す。夕食後は夕焼けの燧ヶ岳と沼畔のさざ波をカメラに収めて満足。きれいでした。特に雲がいろんな形に変化し、夕日に映えました。

7月26日(日)

燧ヶ岳を越えるコースの見晴新道が通れないこともあり、ナデツ窪を下る予定で小屋の方に相談すると、長英新道を往復しても時間は変わらないとの説明。ピストンに決まる。しかも、空荷。燧ヶ岳に上らない予定の者も、参加し、全員でピストン

ニッコウキスゲの群生を見ながら、木道を歩く。分岐に着き、ザックを一か所に集めて再出発。数日来の雨で、道はぬかるみ。歩きにくい。オオシラビソやユメツガが茂るほどの暗い道は緩やかに上り、倒木を渡り、水たまり、沼地ぬかるみの連続。ピストンでよかった。

荷を持って登りたくない。途中広く開けた 2000mあたりで小休止。ここから山頂が見える。人影もみえる。急な木の階段の向こうには、真っ青な空と白い木のコントラスト。

シノブチ岳で記念写真。足元の尾瀬沼

と日光連山が見渡せる。^{まないたくら} 俎 嵩 がそびえている。手を伸ばせば届きそう。ナデツ窪との合流点を緩やかに登っていくと、急坂になり、岩登りで俎嵩に着いた。宮

原君と石津君は^{しばやすくら} 柴安嵩に出かけ、我々は弁当タイム。山頂は混雑し、座る場所もままならない。斜面に座る場所を見つけ、尾瀬沼を見ながら食べる。シノブチ岳では、熊本からの女性達と遭遇、宮原君の熊本弁で同郷とわかる。しばしローカルの話で盛り上がる。分岐に戻り、ザックを担ぎ、尾瀬沼を再スタート。沼



尻休憩所まで、皆元気、私だけ、ビールを飲む。白砂峠を通過する位になると、歩みが遅くなる。もうどれだけ歩いたのだろうか？ピストンの時間を入れると、8時間近くになる。原の小屋迄、あと何百里……。イコダマリ沢を抜けると平坦になった。小屋まで数百メートルという表示は間違いだ。なかなか着かない。体力落ちたなー。やっと着いた、朝の出発から、10時間かかった。小屋前のベンチに集まり、ビールとおつまみ、お疲れ様でしたあ。



7月27日(月)

木漏れ日のさす、朝の風が心地よい。全員で記念写真と思ったら、石津君は単独行で、すでに、至仏山へ向かっていた。百名山を目指すか？残された我々は、散策モードで小屋を後にする。花の名前を調べたり、這いつくばってのんびり写真撮影。尾瀬の水は川からでなく、すべて雨水との事、ガイドの話の盗み聞き。牛首分岐には、合宿らしい、男性の集団や、おばちゃんグループ、子供連れ、カップル、老カップルもいたよ。我々も、老人か。

やっと、山の鼻に到着。アイスクリームを食べながら、のんびり過ごす。小中校生

徒のキャンプ中。最後の登り、峠まで、川上川沿いを歩く。川が澄み、魚が見える。木道修理中で、ヘリで運ぶのか、でっかい木柱が幾重も重なり置いてある。鳩待ち峠に着いた頃、石津君からのメールに気づく。「至仏 登頂」ほどなくして、彼は峠に降りてきた。

バスと温泉の送迎車で、ろうじん温泉へ向かう。正式名は老神温泉。(おいがみおんせん)北原さんは、恒例の旦那さんと東北の旅へ向かう。我々は、老神温泉伍楼閣(4つの露天風呂と2つの大浴場)で宴会で一す。付近には、108mの大蛇神輿(ギネス世界記録)が収まっている建物？がある。

この大きな神輿は赤城神社のご神体が白蛇であり、白蛇は青大将の突然変異であることから、青大将を忠実に再現して作成されたものです。

その昔、赤城山の神と日光男体山の神とが今の戦場ヶ原で領地争いをしました。お互いに蛇と百足とに化けて激しく戦いましたが、蛇になった赤城の神は矢傷を負ってしまいました。キズを負った赤城の神は、老神の地まで戻り、矢を抜き、地面に刺しました。すると温泉が湧いたのです。その温泉で傷を治し、すぐに元気を取り戻し見事百足を追い払いました。男体山の神を追い払ったことから、その温泉は「追い神」と呼ばれるようになりました。それが、今の老神温泉の由来となり、キズに効果があるとされる由来です。大蛇祭りは、守り神の感謝の気持ちこめて5月、大蛇を神輿に仕立てて温泉街を練り歩く勇壮な祭りです。(観光案内から)

来年は、八甲田山とのうわさもあり、トレーニングして、筋力アップを図らねばなりません。メインは、温泉です。来季も楽しい山行になりますように。

9 ワンゲル今昔（スタンツ）

(1) 農学部名物スタンツと、そのご縁が今も脈々と…

山口支部 昭和42年卒 農 木山 克彦

半世紀も古い話で恐縮だが、農学部は昭和41年11月山口へ移転するまでは下関市長府に在り、ワンゲル活動も長府での独自の活動であった。

その当時一世を風靡した【農学部名物】の記事を載せたいので一筆願いたいとの要請を受けたので、恥を忍んでご紹介致します。

長府と言えは落ち着いた古き城下町で、町中において農学部生は結構人気の有る存在であったし、学生時代特有の勝手な甘え心も手伝って、相当にバンカラを貫いていたように思います。

そんな時代と町の雰囲気背景に、何か農学部らしい出し物を！と、下宿に集まって考え出されたオリジナルのスタンツが【農学部名物】であり、中四国合ワンを始め各地で話題になったものです。50年近く経った今もなお、話題に上るのは、考案者の一人として何とも感慨深い物です。

さて、農学部名物は以下のようなもので、残念ながら紙面ではお伝えできない様な節回しと、同時に体全体で面白おかしく振付けを行うもので、特に二番目の農学部名物は複雑多岐にわたる動作が伴うので、4-5名位居ないと出来ないものです。以下、出来るだけ読者の脳裏に浮かぶように記述してみますが、事が事だけに多くをご想像に委ねます。

農学部名物

行程1. 声 【農学部名物数々有れどー その名も高きー 肥え担ぎー】

動作 【振付けの準備に入る】

行程2. 声 【えんや こりゃー しょっと】

動作 【腰を少し落として天秤棒で桶をかつぐ動作をしながら周辺を練り歩く】

行程3. 声 【奥さんー 流してくださいー】

動作 【練り歩く動作を止めて 両手を口に当てて大声で発する】

一通り終わると、一呼吸おいて次に入ります。

行程4. 声 【名物お次はー 牛の種付けー】

行動 【最低二人が組になって 牛が両足で立っている形になる】

行程5. 声 【良い精子じゃのー】と、他の一人が獣医役となり声を発する

動作 【大型の注射器を見つめ上にかざして叫び、牛の後ろ側に回って股間に注射器押し込み、人工授精の格好をする】

行程6. 声 【えー子牛になれよー】

動作 【牛の胴体半分の後方の人は腰をくねらせる】

ちょっと間をおく

行程7. 声 【おー生まれるぞー】

動作 【もう一人(小さい人が良い)が牛の腹側に上向きにへばりついて、自分の頭を牛役の人の股間に入れておき、牛のお尻に回った人(人工授精の獣医役でも良い)がお産時の如く、牛役の人の股間から子牛役の人を引っ張り出す】

以上が大雑把ですが、当時大人気だった農学部名物です。

さてさて、懐かしい長府時代から随分と歳月が流れ、【農学部名物】は山口に統合移転された時点で過去のものとして葬り去られました。

長府時代を一緒に過ごした同期の故江崎君が2002年急逝したので、翌年彼を偲ぼうと面識のある有志が湯田温泉に集いました。この時、長府時代を知る有志の起案で発会したのが農学部OB会の芽生えで、当初は二年ごとの開催でスタートするも、有る時より毎年開催の希望が出る程に発展してきており、その足跡を以下に記述してみました。

第 1 回	2003 年 7 月	湯田温泉	翠山荘
第 2 回	2005 年 7 月	下関	海峡ビュー下関
第 3 回	2007 年 5 月	奈良	みかさ荘
第 4 回	2008 年 7 月	能登半島	蛸島 民宿
第 5 回	2009 年 6 月	城崎温泉	KKR城崎玄武
第 6 回	2010 年 5 月	平湯温泉	KKRたから荘
第 7 回	2011 年 5 月	琵琶湖湖畔	KKRびわこ
第 8 回	2012 年 5 月	道後温泉	KKR道後ゆずき
第 9 回	2013 年 5 月	鹿児島	KKR敬天閣
第 10 回	2014 年 5 月	鳥羽	KKRいそびえ
第 11 回	2015 年 5 月	山口	惣野旅館

本会は余程の事情がない限り全員出席できる様に、持ち回りの幹事役は早くから日程調整し、前もって希望の場所も汲み取って実行しており、その間には長府時代を知らない農学部OBからの参加希望や奥さん同伴もあり、農学部OB会は個々人の家庭にとっても、楽しい年中行事に組み込まれて行くほど活性化されてきております。

ワングルの仲間は何時までも…良いですね。

10 現役活動報告

(1) 2015 年度夏合宿報告

PL 経済学部・2 年 大江 一嘉

今年の8月24日から29日にかけて、八ヶ岳にて夏合宿を行いました。今年は1パーティー5人を2パーティーを組んで合計10人で行きました。自分はこれまで、このような人数をまとめたことがなく、またPLという立場であったため、合宿に対して始まる前から不安でいっぱいでした。しかし、PWや錬成を通じてパーティーメンバーの頼もしさというものを実感しました。本番でも、部員全員、特に1年生にとっては有意義なものであったと思います。

アプローチ

先輩方に見送られながら始発の湯田温泉駅を出発、青春18切符を片手に在来線でひたすら京都駅を目指します。京都駅から夜行バスで長野県の茅野駅まで行き、そこからタクシーで美濃戸口まで行きました。心配していた雨も降っておらず、曇ってはいましたが雨でないので安心しました。

1 日目

心配していた雨も降っておらず、曇っていましたが丁度いい気温で登山を開始できました。美濃戸口

から赤岳鉱泉へ。道中はそれほど難しいところはなく、体も心も楽に登ることができました。赤岳鉱泉から見える山々は雲がかかっており、とても雄大な自然を感じることができました。赤岳鉱泉でテントを張って1日目は終了です。

2日目

朝から土砂降りの雨。行者小屋まで行き、赤岳周辺の天気を確認したところ、1日中雨だということ。仕方なく赤岳鉱泉に引き返し、枕を決行しました。赤岳鉱泉ではそんなに雨は強くなく、パーティーメンバー全員がやるせない気持ちになっていました。こうした判断をするのもPLの仕事なんだと改めて実感しました。テントの中で1年生とたくさん話げできたので、1、2年の絆が深まったように感じた2日目でした。

3日目

曇っており、霧も凄く、あまり良い天気とは言えませんが、赤岳周辺の山々に向かって出発しました。まず初めに中岳に登りました。中岳に行くまで高低差があったので、朝から少しハードでした。頂上は霧で周りの景色が見えず、残念でした。次に赤岳に登りました。途中、岩場の間を登ったり降りたりする場所や鎖場などがあり、びくびくしながら進みました。サブザックで本当によかったと思いました。頂上到着も曇っていて景色を楽しむことがまたしてもできませんでした。しかし、赤岳頂上小屋で野口さんのサインを発見し、自分が異常に興奮したのはよく覚えています。次は横岳に登りました。登ったというより、赤岳が最高の標高だったのでここからは下る一方でした。地面には石がごろごろころがっており、砂利も多かったのとともあるきにくかったのを覚えています。自分を含め、結構な人が転んでしまいました。横岳に行く途中から空が晴れてきて周りの雄大な自然を満喫できました。最後に硫黄岳に登りました。硫黄岳に行く途中でまた曇ってしまい、頂上に到着しても爆裂火口を見ることはできませんでした。今日は行程が長かったのでみんな帰ったらすぐ寝ていました。

4日目

赤岳鉱泉から黒百合ヒュッテを目指します。まず、赤岳鉱泉から硫黄岳近くまで登り、そこから根石岳、天狗岳を経由して黒百合ヒュッテに行きました。今日はアタックザックでの行動だったので、赤岳鉱泉から硫黄岳近くまで行くだけでも体力を消耗しました。岩場が多く、足に負担がかかりました。足場が不安定なことに加え、昨日の疲れも残っていたので、休憩を少し多めにとりながら進みました。残念なことに黒百合ヒュッテ近くまではまたしても曇りで周りの景色が見れませんでした。黒百合ヒュッテにBSで放送している日本百名山ひと筆書きの登山家がつい先週まで居たという情報を黒百合ヒュッテの方からきいて、またしても自分は異常に興奮してしまいました。

5日目

今日が地上に降りる日です。あいにく雨が降っていましたが、それほど厳しいものではなかったので下山することにしました。石や木が足元に多く、雨のせいもあって滑りやすくなっていました。ただひたすらに地上を目指して降りて行きました。みんな体も心も辛いなか最後までやり遂げました。地上に着いた時には全員がたくましくなったのではないかと思います。

夏合宿を終えて思うことは、様々なことを考慮した上で判断、行動しなければならないということです。行程を決める時から危険箇所を想定したり、コースタイムを計算し無理のない行程を考え、メンバーの身体能力も考慮したり、アプローチをどのような交通手段を使うのか、時間はこれでいいのか、など自分がトレーニングする以外にやるべきことがたくさんあり正直なところかなり焦りました。ですが、今回の合宿で様々なことを経験させていただきました。自分はPLとして責任をもって全員を無事に下山させられたことは人生の教訓となりました。また、個人的ではありますが要所要所で興奮するものに出会えたのにもいい経験になりました。後輩には、辛くなっても踏ん張る我慢強さと自分にとっての楽しみを登山を通して身につけていって欲しいと思います。最後に、連絡先をしてくださった先輩方、色々と助言を頂いた先輩方、本当にありがとうございました。

(2) 第 52 回中国・四国合同ワンデリング報告

人文学部・2年 山本 光慶

今回、中国・四国合同ワンデリングで本学代表を務めました、山口大学人文学部人文社会学科 2 年の山本光慶と申します。部活を代表して今回の合宿の報告をさせていただきます。

今年の第 52 回中国・四国合同ワンデリングは愛媛大学が主幹校でした。10 月 10 日～12 日にかけて開催され、キャンプ場として愛媛県内のふるさと旅行村を使用しました。現地で A,B,C ブロックに分かれ、それぞれの行程を楽しみました。

合宿の中で最も盛り上がったのは、各大学が発表する演劇やダンスなどの出し物でした。山大はトップバッターを引きあて、山口ボンボンを踊りました。トップバッターを引き当てた時は不安でしたが、各大学の皆さんが山口ボンボンに大勢参加してくださりトップバッターとして非常に盛り上がる出し物をできたのではないかと考えています。また、岡山大学や島根大学などの伝統の出し物で会場はさらに盛り上がりました。

懇親会では成年ブロックと未成年ブロックにわかれてお互いの交流を深めあいました。成年ブロックでは何名か飲みすぎた方もおられましたが、成年ブロック、未成年ブロックともに他大学との交流が非常に盛んにおこなわれていました。また、主に四国地方の OB の方も何名か会場に足を運んでくださいました。引退されてもなおワングルの活動に参加くださる OB さんの姿勢を見習いながら、これからのワングル活動をますます活気あるものにしてこうという思いが強まりました。

今回の中国・四国合同ワンデリングを通じて、他大学のワンダーフォーゲル部との交流の意義を改めて実感しました。他大学との貴重な交流の機会を存分に楽しみ、これからのワングル活動をより充実したものにしていきたいです。

誠に簡単ではございますが、中国・四国合同ワンデリングの報告とさせていただきます。

1 1 編集後記

人文学部・4年 小林 遼大

先日は、現役生を懇親会にお招き頂き、誠にありがとうございました。

諸先輩の様々な方との交流のなか、ワングルの歴史、また、OB の方々のワングルに対する想いを感じ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

ワンダーフォーゲル部は、他の部活にはないぐらい、OB の方々とのつながりが強い部活だと、改めて実感する機会となりました。今でもたくさんの OB の方々が現役の活動も活気づけてくださり、OB さんの存在が大きな支えになっていると感じた現役生も多かったと思います。

今回の OB 通信の発行で、一年間務めさせていただきました OB 会の事務局長の役目も終わりになります。就職活動の時期には、忙しさにかまけて事務局の仕事に差し障る場面もありました。今は、なんとかやり終えたということで、ほっとしております。

最後になりますが、OB 通信に寄稿してくださった皆様、そして編集に携わってくださった皆様に、深く感謝申し上げます。